

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第97号

ななえ古写真物語

VOL. 97

鹿園のはなし

大沼公園改良案と鹿園

昭和30年

大沼地区



一説によると、七飯町で最も高い山である横津岳は、アイヌ語で鹿が多くいる所を意味する「ユク・オコ・ツ」が転化し「横津」となったともいわれています。だとすれば、横津岳から山々でつながる当館近くや、大沼方面など、七飯町で今でもシカが見られるのは、ごくあたりまえの事なのでしょう。

そんな鹿についての話なのですが、現在の大沼駅の裏側、小沼に面する一角に鹿園が設けられていたことをご存知でしょうか？ここでは、昭和26年から平成10年ころまで、浦河町から連れてこられたエゾシカを繁殖する「エゾシカ園」でした。その名残りは、今でも昭和寺へ向かう道中の踏切に鹿園の文字が残ることからもわかります。しかし、実はこのエゾシカ園は「再開」という形でのスタートであり、鹿園の歴史を調べると、大正時代にまでさかのぼることがわかりました。

まず、昭和9年に大沼尋常高等小学校で発行した『大沼郷土誌』をみると「鹿園 駅から二百米の所にあつて大正十年宮城県金華山から鹿を移して設けたもので小沼に面した半島に飼育している」とあり、エゾシカ園の場所と合致します。

また、『物語 大沼小史』（昭和35年 永井正 発行）によると、「昭和十八年、太平洋戦争がし烈を極めたこの頃は、鹿園の鹿に与える飼料もひつ迫したため、やむを得ずこの鹿を、全道各地に分散してしまいました。」と、その終わりについて記されています。

では、なぜ大沼に鹿園を設けるに至ったのでしょうか？ どうやら発案者は、林学博士や造園家として名をはせた「本多静六」という人物であることがわかりました。彼は、日比谷公園や鶴ヶ城公園など、日本各地の公園設計などに携わり「日本の公園の父」とも称される人物で、大正3年に、北海道庁の委嘱を受け、大沼の実地調査をし「大沼公園改良案」を報告しました。その中に遊園地外の諸設備として、鹿園と鹿園を設けることを提案しています。しかも飼養するシカについては、本道産（エゾシカ）が最も可だが、金華山より貰い受けるを宜しとすと提言しています。また、鹿園の場所は、現在の大沼セミナーハウスの辺りを予定していたようですが、大正10年に設けた場所は、小沼に面する半島へと変更したようです。

本多静六の改良案がその後、どう活かされたのか、今後の研究課題が生まれた一枚でした。

2月の予定

2日

夜の博物館の後期講座が、いよいよ始まりました。第1夜は「文化財としての狛犬」です。まずは、学芸員から文化財とは何か？ 法的な分類や広義の意味を説明し、七飯町指定文化財をいくつか間近で見学してもらいました。

そして、その後は本題の「狛犬」についてです。七飯町に点在する個性的な狛犬たちを紹介しながら、時代的な違いや、七飯町の石工たちの話をしました。身近な造作物にも文化財としての価値がある。そのことに、気付いていただけたでしょうか？



26日

ジュニア探検クラブで、年末恒例となっているそば打ちと、餅つきに挑戦しました。

まずは、当館友の会の指導をもらいながら、班ごとにそば打ちを開始です。一度に水を加えすぎ、生地が柔らかくなったり、太く切りすぎて、きし麺のようになっていたりしながらも、みんなおいしく食べることが出来ました。午後からは、餅つきです。学芸員から、餅について良い日とそうでない日の説明をうけた後、臼と杵を使って力強く打ちました。ちぎって試食したり、お土産に持ち帰ったりと、年末のプログラムを楽しんだようです。

27日

親子体験教室でも、餅つきに挑戦しました。参加のお父さんたちに、蒸かしたもち米を杵でつぶしこねる作業をしていただき、こどもたちには、重い杵でしたが、一生懸命つきましたよ。

ついた餅は、あんこを包み、あんころ餅にして、みんなで試食しました。つきたてはおいしかったかな？



1 月 企画展開催中！

2 火

3 水 夜の博物館

4 木

5 金

6 土

7 日

8 月

9 火

10 水

11 木 建国記念の日

12 金

13 土

14 日

15 月

16 火

17 水

18 木

19 金

20 土

21 日

22 月

23 火

24 水

25 木

26 金

27 土 ジュニア探検クラブ

28 日 ふぁみりーでいみゅーじあむ

29 月

2月の休館日はありません。

企画展がOPENします！

現在、スタッフ一同で、企画展「冬のくらし展」の準備を進めております。ストーブや雪かきなど、冬に使う道具を紹介いたします。1月22日より開催しますので、是非ご覧いただけます。



編集後記 ~tawagoto~

このタイミングで、遅いことは重々承知ですが、明けましておめでとうございます。本年も当館へのご愛顧をよろしくお願いいたします。

さて、昨年末にあまり降らないと思っていた雪も、好調に降り積もり、1月は一転し白い世界となりました。気温もマイナス日が続き、本格的な冬の到来を感じています。そして、寒がりな私とはいうと、室内での執務にもかかわらず、厚着をしながら冬を楽しんでいます。（やまだひさし）

Richard ~ピチャリ~

第97号

平成28年1月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp